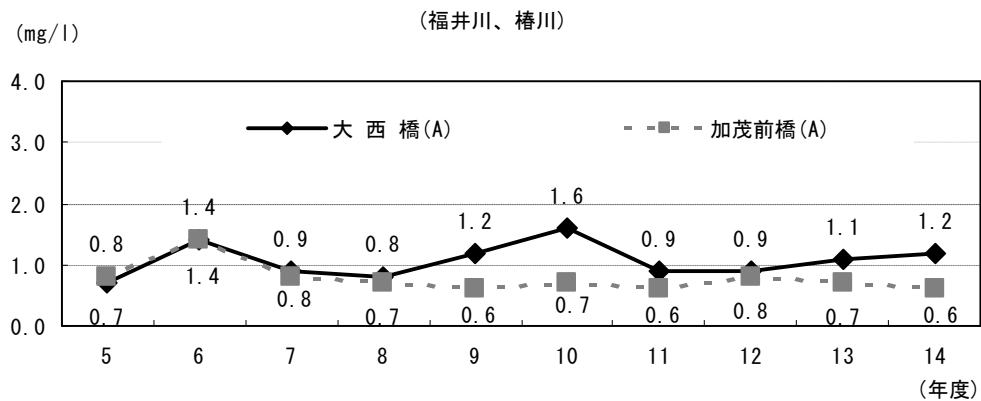
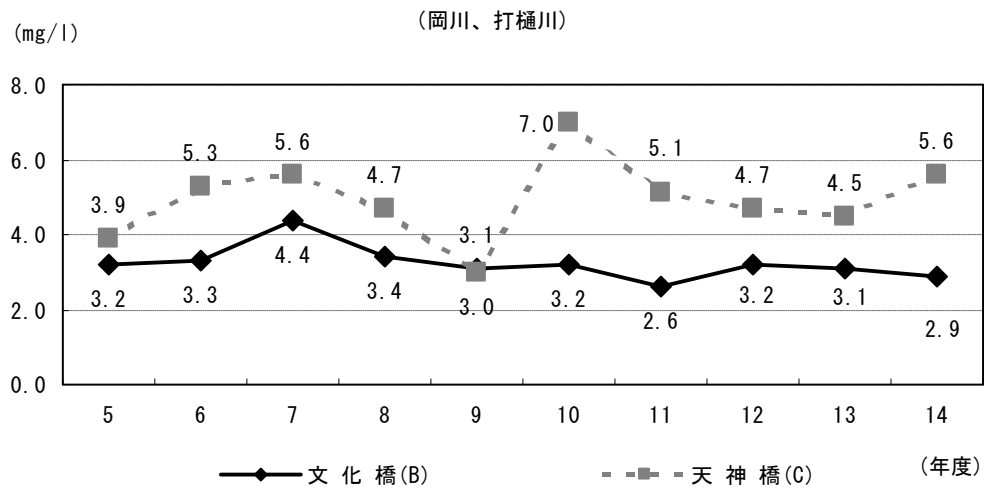
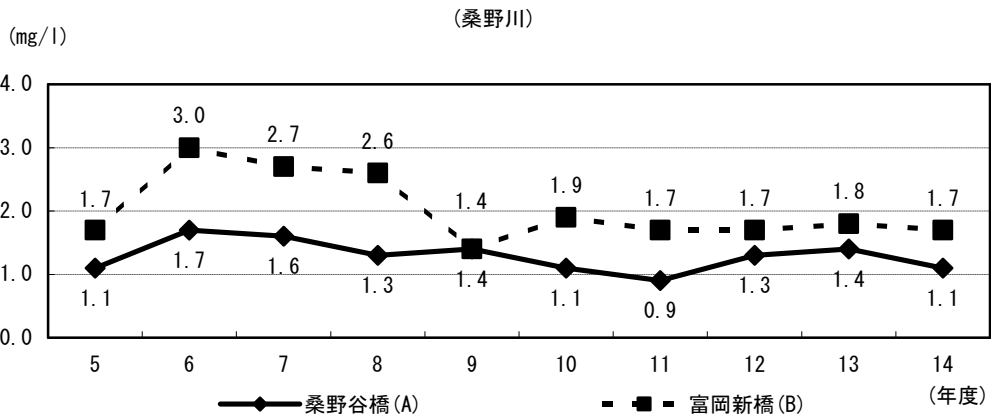
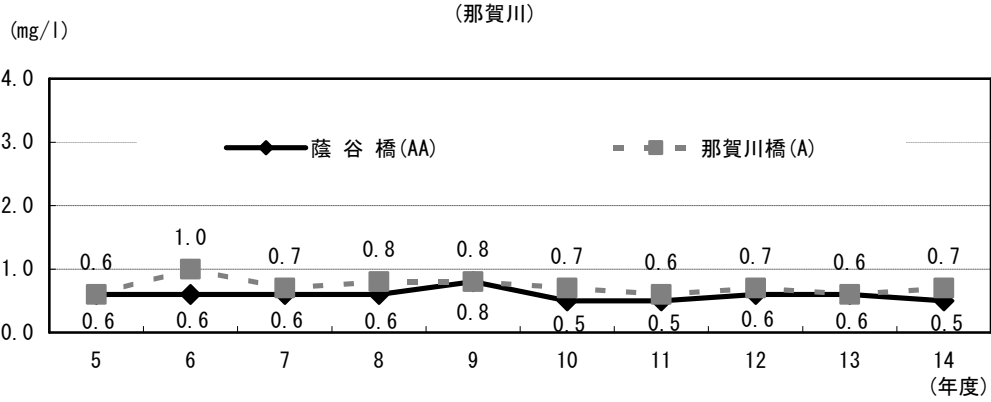


図2-2-17 BOD平均値の経年変化（那賀川水系等）



d 県南沿岸海域に流入する河川

当海域に流入する主要な河川は、日和佐川、牟岐川、海部川及び宍喰川であり、中でも海部川は県下の2級河川のうち勝浦川に次いで大きな河川で、幹線流路延長は36.3kmです。これらの河川の流域には、人口の集中及び工業等は少なく大きな汚濁源はありません。

平成14年度の環境基準点（図2-2-18）における測定結果は、表2-2-40のとおりであり、すべての水域においてBODに係る環境基準は達成されています。

また、BOD年平均値の経年変化は、図2-2-19のとおりであり、例年とほぼ同程度になっています。

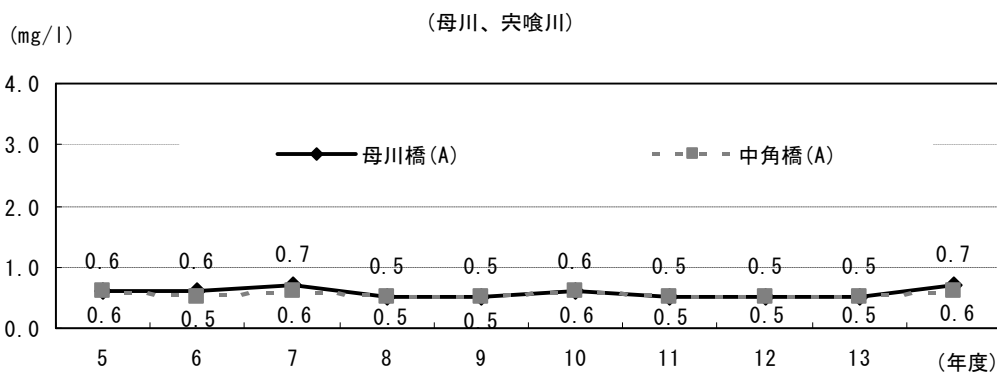
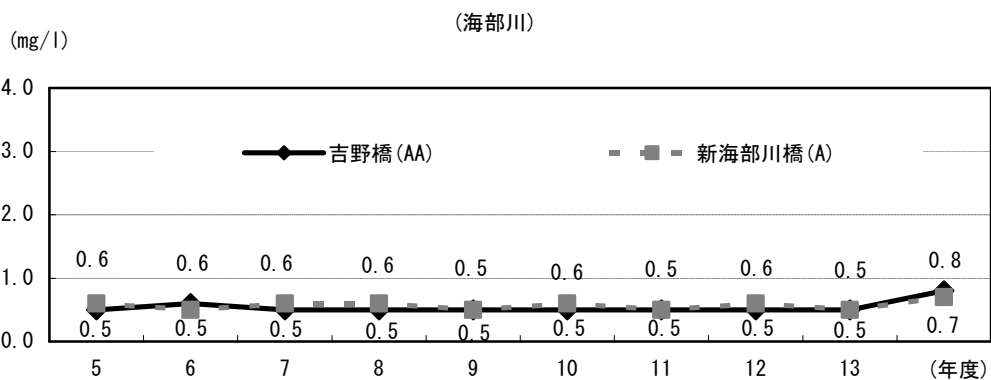
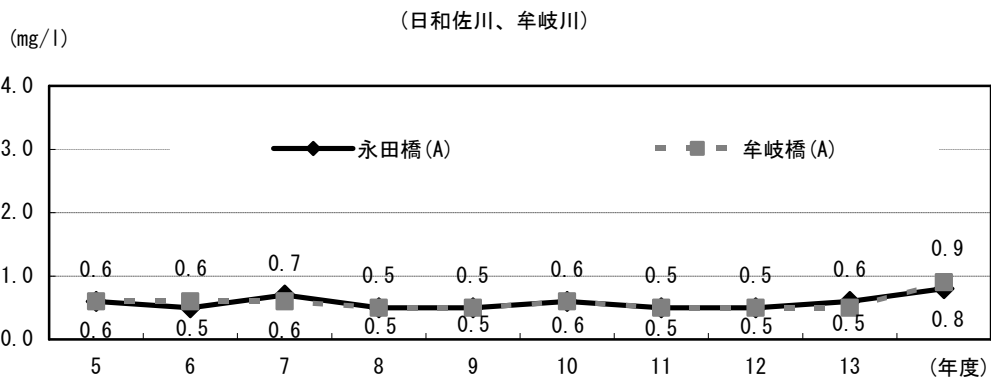
図2-2-18 県南沿岸海域に流入する河川環境基準点



表2-2-40 県南沿岸海域に流入する河川の測定結果 (平成14年度)

水域名 (河川名等)	地点名	類型	pH	DO	BOD		SS	大腸菌群数
			最小～最大	平均	平均	75%値	平均	平均
日和佐川	永田橋	A	6.5～7.5	9.2	0.8	<0.5	<1	2.1e3
牟岐川	牟岐橋	A	6.7～7.8	9.2	0.9	1.0	<1	1.7e3
海部川(上流)	吉野橋	AA	6.8～8.3	9.6	0.8	<0.5	1	4.6e2
海部川(下流)	新海部川橋	A	6.8～7.7	9.6	0.7	<0.5	1	1.4e3
母川	母川橋	A	6.6～7.8	9.2	0.7	<0.5	1	5.0e3
宍喰川	中角橋	A	6.7～7.4	9.3	0.6	0.5	1	2.6e3

図2-2-19 BOD平均値の経年変化（県南沿岸海域に流入する河川）



(イ) 海域

a 県北沿岸海域

本海域は、播磨灘南部、ウチノ海及び鳴門海峡からなる水域であり、その大部分は瀬戸内海国立公園区域に指定され、また、水産資源の豊富な海域です。本海域に流入する汚濁源としては、無機化学工業、水産食料品加工業等の事業場がありますが、その汚濁負荷量は比較的少ない状況です。

平成14年度の環境基準点（図2-2-20）における測定結果は、表2-2-41のとおりです。4基準点（類型A）におけるCOD75%値は、1.5～1.7mg/lで、CODに係る環境基準は達成されています。

COD年平均値の経年変化は、図2-2-21のとおりであり、例年とほぼ同程度となっています。

また、全窒素及び全磷の3基準点における平均値は0.16～0.17mg/l及び0.020～0.021mg/lであり、全窒素及び全磷に係る環境基準は達成されています。